

第 21 回 若手かんがい排水技術者のための勉強会（現地見学会）

令和 7 年 8 月 26 日及び 27 日、千葉県において第 21 回若手かんがい排水技術者のための勉強会（現地見学会）を一般財団法人 日本水土総合研究所の公益事業と連携し、農事組合法人「鹿島」、関東農政局、千葉県、印旛沼土地改良区、両総土地改良区、北総東部土地改良区の協力により、新潟大学、筑波大学、岐阜大学、近畿大学、東京大学、東京農工大学から 23 名の参加により開催した。

現地見学会において、1 日目は印旛沼土地改良区の大区画ほ場の特徴と地域社会への貢献について学ぶとともに、現在進行中の国営印旛沼二期農業水利事業の概要や農業水利施設が地域農業に果たす役割について説明を受けた。2 日目は両総用水の第 1 揚水機場の見学、両総地域の用水の歴史や施設の役割の説明を受け、香取管内の北総東部用水について「やまといも」の自動灌水試験のほ場の見学を行った。また、国営印旛沼二期農業水利事業の会議室において、開催した勉強会では、公務員や民間企業の職員より業務内容等についての説明を受けた。

表 プログラム

時 間	行 程
< 1 日目 >	8 月 26 日（火）
12 時 40 分	京成佐倉駅 貸切バス乗り場 集合
13 時 00 分～14 時 00 分	農事組合法人「鹿島」：概要説明・現地見学
14 時 10 分～14 時 50 分	国営印旛沼二期農業水利事業 宗吾西機場：現地見学・概要説明
15 時 10 分～15 時 40 分	国営印旛沼二期農業水利事業：概要説明 @国営印旛沼二期農業水利事業所 会議室
15 時 50 分～17 時 00 分	勉強会 @国営印旛沼二期農業水利事業所 会議室 ・農業農村工学系の就職先について
17 時 40 分	宿泊施設 着 （アパホテル〈京成成田駅前〉）

< 2 日目 >	8 月 27 日（水）
8 時 15 分	宿泊施設 発
9 時 00 分～10 時 00 分	両総用水 第 1 揚水機場：概要説明・現地見学
10 時 30 分～11 時 20 分	県営畑総事業「北総」地区：概要説明・現地見学
12 時 00 分	京成成田駅 解散

1 現地見学会

（1）農事組合法人「鹿島」

農事組合法人「鹿島」は、地域農業の振興を目的に印旛沼土地改良区が中心となり平成 7 年に設立。当時としては日本最大の 4.9ha 区画での営農を実践。現在、7.4ha の水田は営農されているものとしては日本一であり、乾田播種による営農を実施している。平成 25 年にマルシェかしまをオープンし、特別栽培米や開発した米粉の加工品を販売。印旛沼土地改良区は、これまでに団体営事業、県営事業によりほ場の大区画化を進めており、地域農業・社会に貢献していることの説明を受けるとともに、農業の担い手不足など、全国でも同様に直面する課題が共有された。

（2）国営印旛沼二期農業水利事業：宗吾西機場の見学及び概要説明

宗吾西機場が整備された印旛沼用水地区は、千葉県北部の印旛沼周辺（成田市、佐倉市他）に位置

し、広範囲の水田で営農が行われている。本地区は、国営印旛沼干拓土地改良事業（昭和 21 年～昭和 44 年）等により、ほ場整備、用排水機場、用排水路などが造成され、農業用水の安定供給及び洪水防止に貢献。一方、造成から 40 年以上が経過したことによる施設の老朽化の進行により、維持管理が困難となっていることから、現在、国営事業による宗吾西機場の造成やその他の老朽化した施設の改修を実施しているとの説明を受けた。

（3）両総用水：第 1 揚水機場の見学及び概要説明

両総用水は、旧佐原市周辺の水害と九十九里平野の干害を解決するため、昭和 18 年に事業化が実現し、国が幹線用水路を、県が支線用水路を築造し、県内有数の農業地帯として発展しており、県の水田面積の約 20 パーセントの水田に灌漑している。両総用水の特徴としては、利根川から取水した農業用水約 15 m³/s を有効活用するため、一度水田にかんがいした水の排水を繰り返し利用していることなどの説明を受けた。両総用水の農業用水施設は千葉県と両総土地改良区が管理しており、第 1 揚水機場のポンプや施設の管理・操作室の見学を行った。

（4）北総東部用水：畑地かんがいを活用した自動灌水試験の見学

北総東部用水は利根川から取水し、パイプラインやファームポンドを通じて香取市他の 4 市 3 町にまたがる約 4,300 ヘクタールの農地にかんがいしており、末端整備事業は県営畑地整備事業等で整備されている。香取市、多古町は、県内有数の「やまといも」の産地であり、やまといもは、品質・収量向上のために灌水が必要である。現在、灌水作業の省力化と品質向上に向けた自動灌水試験が実施されており、そのほ場やスプリンクラーの散水状況などを見学した。自動灌水試験は、センサーにより土壌水分を測定し、土壌水分の状況に応じて自動的に弁が開閉し、灌水するシステムになっており、今後は自動灌水システムの確立に向けて、機材の検討や灌水間隔や灌水量の検証を行っていくとの説明を受けた。

2 勉強会（農業農村工学系の就職先について）

国営印旛沼二期農業水利事業所の会議室にて開催された勉強会では、国（関東農政局設計課）、千葉県（耕地課）、民間企業（NTC コンサルタンツ）の担当者から、それぞれの職場での業務内容や仕事の特徴・役割、採用情報等について、各自の経歴や経験も交えつつ、ご説明いただいた。



農事組合法人 鹿島 大区画ほ場（現地見学）



国営印旛沼二期農業水利事業 宗吾西機場（施設見学）



国営印旛沼二期農業水利事業 宗吾西機場（施設見学）



国営印旛沼二期農業水利事業 宗吾西機場（施設見学）



国営印旛沼二期農業水利事業（概要説明）



両総用水 第1揚水機場（施設見学）



両総用水 第1揚水機場（施設見学）



両総用水（概要説明）



北総東部用水 自動灌水試験（現地見学）



北総東部用水 自動灌水試験（現地見学）



参加者



勉強会